

主日礼拝

2026年10月11日 10時20分～

司式:

奏楽:

「イエスの名のために」

『ダニエル書』3章13～26節では、バビロンの王ネブカドネツアルが、金の像を拝まなかったシャドラク、メシャク、アベド・ネゴを燃える炉に投げ込む場面です。三人はユダヤ人であり、王の命令であっても、主なる神以外を拝むことを拒否したのです。王は彼らにもう一度機会を与えますが、三人の意志は変わりません。そこで王は三人を炉に投げ込みますが、王は燃える炉の中で、歩いている四人の者を見ます。四人目の者は「神の子」のように見えたのでした。三人は無傷に炉から出てきます。このことを通して王は、三人が信じる主なる神を認め、主なる神を罵る者は厳しく罰せられるようにと、新たな命令を国中に布告したのでした。三人はバビロン州で高い位に据えられます。

『使徒言行録』5章27～42節では、使徒たちが最高法院に連れて来られ、主イエスの名によって教えることをやめるよう、大祭司から命じられる場面です。しかしペトロと使徒たちは「人に従うよりも、神に従うべきです」と答えます。さらに彼らはユダヤ人指導者たちが十字架につけた主イエスを、神が復活させ、神の右の座に着かせられたのだと言うのです。最高法院の人々は使徒たちを殺そうとしますが、ファリサイ派のガマリエルは、もし彼らの活動が人間から出たものなら自滅するが、神から出たものなら滅ぼすことはできない、と慎重な判断を求めます。そこで最高法院の人々は、使徒たちに鞭打ちを受けさせ、主イエスの名によって語ることを改めて禁じて釈放するのです。それでも彼らは、主イエスの名のために辱めを受けることを喜び、それからも神殿や家々で、絶えず主イエスの福音を告げ知らせ続けます。

《神の招き》

前奏 招詞 賛美歌
『永遠なる神の光の源よ』ヘンデル
詩編68編5節
151

《神の言葉》

祈書 聖霊の照らしを求める祈り
ダニエル書3章13～26節 (旧約1364頁)
使徒言行録5章27～42節 (新約218頁)

子ども説教
交読詩編 37編32～40節 (45頁)
賛美歌 教会福音讃美歌455
説教 「イエスの名のために」 八木浩史牧師
祈書
賛美歌 508

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条
奉献 献金 祈禱: 献金当番
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌祝報 栄福告 27
後奏 オリーブコンサート&星野富弘詩画展のための祈り
『流れゆく川よ、喜び歌え』ヘンデル

礼拝当番: (役員:) 献金当番:
音響: 映像: